

「動機づけ制御に関するドーパミン神経の役割と少量L-ドーパ療法の多様性」

第3回研究会は、放射線医学総合研究所 脳機能イメージング研究部 南本敬史先生を特別講演としてお招きし、PETイメージングによる報酬系に關与するドーパミン、セロトニン神経機能をご講演頂きます。一般演題として、小児レストレスレッグ症候群、ムクナ豆にて治療した瀨川病、吃音や情緒障害に対する少量L-ドーパ療法を検討し、発達期におけるドーパミン神経の重要性を議論します。

日時 2016年7月31日(日) 13:00-17:00
場所 本郷瀨川ビル 6F 会議室 (文京区本郷 2-35-10)

プログラム

- 13:00-13:05 開会の挨拶 星野 恭子 (小児神経学クリニック)
- 13:05-14:05 特別講演
「サルの動機づけ制御とその障害におけるドーパミンとセロトニンの異なる役割」
量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
脳機能イメージング研究部 システム神経回路研究チーム チームリーダー
南本敬史 先生
- 14:05-14:35
「小児期発症のむずむず脚症候群に対する少量L-ドーパ療法の経験」
小児神経学クリニック 長尾 ゆり、星野恭子、木村一恵、林 雅晴、八森 啓
- 14:35-15:10
休憩 (本郷瀨川邸 訪問)
- 15:10-15:40
「ムクナ豆の服用で7才からの日内変動を伴う歩行障害が消失した瀨川病11才女兒」
国立成育医療研究センター 久保田雅也、寺嶋宙、熊谷淳之、柿本優、武井剛、八鍬瑛子
- 15:40~16:00
「少量L-ドーパ療法の吃音、中途覚醒、情緒障害に対する経験」
小児神経学クリニック 星野 恭子
- 16:00~16:45 総合討論 (シンポジウム形式)
司会 林 雅晴 木村 一恵
- 16:50 閉会

第3回 乳幼児のアミン系神経を考える研究会

主催 少量L-DOPA療法研究会

テーマ:「動機づけ制御に関するドパミン神経の役割と少量L-DOPA療法の多様性」

開催日時: 2016年7月31日(日) 午後13:00-17:00

開催場所: 文京区本郷2-35-10 本郷瀬川ビル 6F

交通アクセス

丸ノ内線・大江戸線「本郷三丁目駅」徒歩5分

三田線「春日駅」徒歩7分

南北線「後楽園駅」徒歩7分

総武線「水道橋駅」徒歩10分

